

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記4

国立市立国立第七小学校

平成28年5月12日 NO.12 (312)



花ちゃん 「あれあれ？校庭^{こうてい}で何かやっていますね。」

オー君 「みんなでシイタケのコマを打^うっているところですね。」

モンタ博士 「たくさんのお友達^{ともだち}が集^{あつ}まってくれて、みんなで楽^{たの}しく『シイタケのコマ打^うち』
体験^{たいけん}ができてよかったね。おいしいシイタケができるのが楽^{たの}しみだ。」

花ちゃん 「何^{なん}の木^きに打^うっているのですか。」

モンタ博士 「佐藤市長^{さとうしちょう}さんのおうちからもらったクヌギ。それから、モンタ博士^{たの}がおうち
の近^{ちか}くの雑木林^{そうぎばやし}からもらってきたコナラだよ。」

オー君 「たくさんあるみたいですね。何本^{なんぼん}くらいあるのですか。」

モンタ博士 「細^{ほそ}い^{ふと}のから太^{せんぶ}いのまで、全部^{ほん}で40本^{おも}くらいあると思うよ。」

花ちゃん 「へえー。そんなにあるのですか。」

オー君 「コマ^{なんこ}というのは、何個あるのですか。」

モンタ博士 「全部^{ぜんぶ}で800個^こもあるんだよ。」

花ちゃん 「それを全部トントンと打ったのですか。」

モンタ博士 「そうだよ。みんなでトントンしたから、あっという間に終わったね。」

オー君 「始める前に、フッタ博士からコマ打ちの説明がありました。」

フッタ博士 「シイタケづくりはとっても簡単さ。クヌギやコナラの櫓木とシイタケの種の
コマがあればいいんだ。木をよく見ると、あちこちにたくさんの穴があるだ
ろう。それにコマをつめて、トントンと打てばいいんだよ。」

オー君 「それだけでいいのですか。」

フッタ博士 「コマをよく見ると、白っぽい綿のようなものがついているだろう。これが
シイタケの種、シイタケ菌だね。」

花ちゃん 「それで、シイタケはいつできるのですか。」

オー君 「明日？あさって？それとも来週。」

フッタ博士 「そんなにすぐにはできないんだ。」

花ちゃん 「それじゃ、6月ですか。7月ですか。」

フッタ博士 「いやいやもっと先だね。早くて今年の秋にできればラッキーだね。もし
できなければ、その次の春か秋かもしれないね。」

オー君 「たくさん打ち込んだ櫓木は、どこにあるのですか。」

フッタ博士 「みんなでトントンした後に、モンタ博士と校舎の裏に運んでおいたんだ。」

花ちゃん 「下の写真右がその様子ですね。」

フッタ博士 「ともかく、シイタケができるまでみんなで楽しみに待っていよう。」

モンタ博士 「そして、とれたてのシイタケを焼いて、お醤油つけてみんなで食べたいね！」



そのうち
できるよ！